

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	68人	社会	68人	数学	68人
	理科	68人	英語	68人		

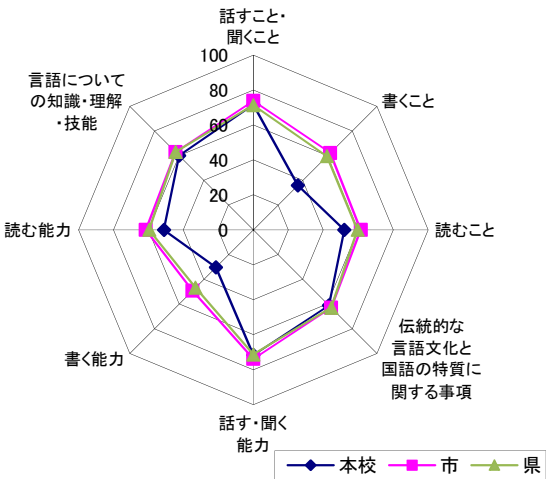
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.6	73.8	71.3
	書くこと	36.0	62.2	59.6
	読むこと	52.0	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.1	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	71.6	73.8	71.3
	書く能力	30.3	49.2	46.8
	読む能力	51.2	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	60.0	62.9	62.9



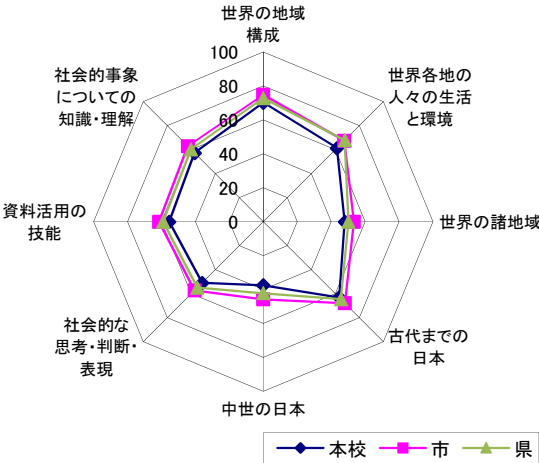
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県平均とほぼ同じである。 ○話の構成や話し方の工夫については理解できている。 ●意見を適切に述べる力に課題が見られる。	授業の中で様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れる。特に、自らの意見を述べる機会を多く設定することで改善を図りたい。また、聞き取りのテストなども定期的の実施していく。
書くこと	平均正答率は大きく下回っている。 ●根拠を明確にして自分の考えを書くことが特に課題である。また、無回答の割合も多く。苦手意識や抵抗感も感じられる。	書くことへの抵抗を除くために、授業の中で書く機会を多く設定する。特に苦手な生徒には、短文からや、パターンを提示するなどから訓練し、長文がしっかりと書ける力の育成を目指す。また、日常でも目的や相手に応じた文章を書くことを意識させる。 段落構成などを意識させるために、書くことの授業だけでなく、読むことの授業でも書くことを意識させる。
読むこと	平均回答率は平均を市の平均と比べて低い。 ○文学的文章の心情をとらえる設問に対してはよくできている。 ●説明的文章の構成や展開をとらえたり、要旨をとらえたりする力に課題がある。	論理の展開に即して内容を読み取るために、段落の役割や構成を意識させたり、段落ごとの要点をまとめさせたりする活動を取り入れる。また、読み取るための基礎となる語彙力を高めさせるために、辞書の活用を習慣化させていきたい。 読書の習慣をつけさせる活動を継続する。また、良書に触れさせるため選び方にも言及したい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県、市と比べやや低い。 ○古文については、平均とほぼ変わらない。 ●読みよりも漢字の書きに課題がある。	授業の中で漢字の小テストを定期的の実施したり、新出漢字や難読漢字の指導をしたり、漢字を学習するための時間を意識的に増やしていく。小テストで間違えた漢字の復習など、宿題等も含め、生徒自らが、家庭でも継続して漢字の練習に取り組む姿勢を育成していく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	70.1	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	61.3	67.5	67.8
	世界の諸地域	48.0	53.4	50.2
	古代までの日本	63.2	68.0	64.6
	中世の日本	37.5	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	51.0	57.3	55.0
	資料活用 of 技能	55.5	61.4	59.1
	社会的な事象についての知識・理解	57.3	62.9	60.3



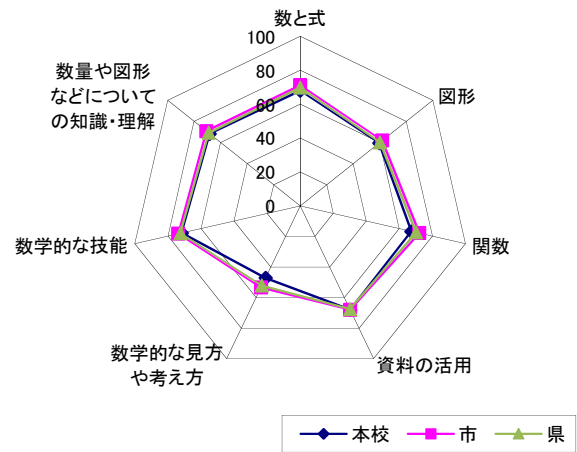
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の海洋の分布や赤道といった、知識理解的な問題については、県の正答率と同様か上回っている。 ●経度・緯度についての問題について、県の正答率を10%ほど下回っている。	地球儀や地図の利用を学習する際に、地球儀と様々な世界地図を比較させながら、それぞれの利点や問題点などを体験的にとらえさせる等、作業的・体験的な学習形態をより一層導入すべきである。
世界各地の人々の生活と環境	○世界各地の雨温図を読み取る問題では、県の正答率を5パーセント以上上回った。 ●世界の人々の住居・生活を気候と関連付けて考察し、説明する問題において、県の正答率を10%近く下回った。	雨温図の理解が表面的であり、高温多湿の気候と住居や服装の関連が図られていない。気候条件に対する人々の工夫といった観点で、知識の関連付けを図る授業展開が望まれる。
世界の諸地域	○一問一答的な、単純な知識や用語を問う問題においての正答率は良い。 ●種地域の特徴をグラフや資料から読み取って考察し、説明する問題において、県の正答率を大きく下回っている。	社会的な事象への理解が表面的であり、知識相互の関連が図られていない。条件に対する人々の工夫といった観点で、知識の関連付けを図る授業展開が望まれる。そのためには、自然条件・社会的な条件を最初に確認し、生活していくためにどのような方法で産業を興すのかといった、演繹法的な考え方での授業構成が望まれる。
古代までの日本	○聖徳太子とその政治改革のあたりでの定着率は高いが、平安時代以降の定着率は低めである。 ●平安京の位置や藤原道長についての定着率が低い。	一問一答的な問題に対する理解は高いが、それと地理的な位置関係、時間系列的な因果関係の理解が低い。学習する際に、教科書やデジタル教科書、ビデオ等を活用して、それぞれの知識を有機的に関連付けする工夫が望まれる。
中世の日本	●承久の乱の意味や鎌倉幕府の仕組みについて、説明する問題についての正答率が県の平均より15%も低く、記述式の問題に空欄で回答する生徒が多い。	全般的に記述式問題について、あきらめてしまう生徒が多い。普段の授業から、生徒相互に説明させるような授業展開において苦手意識を克服させる工夫が必要である。また、キーワードをヒントに出す等、段階的に難易度を設けて出題する工夫が望まれる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.0	71.2	69.8
	図形	59.6	61.9	60.2
	関数	67.2	72.1	70.1
	資料の活用	68.0	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	47.1	53.4	52.1
	数学的な技能	71.7	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	68.3	70.8	69.1



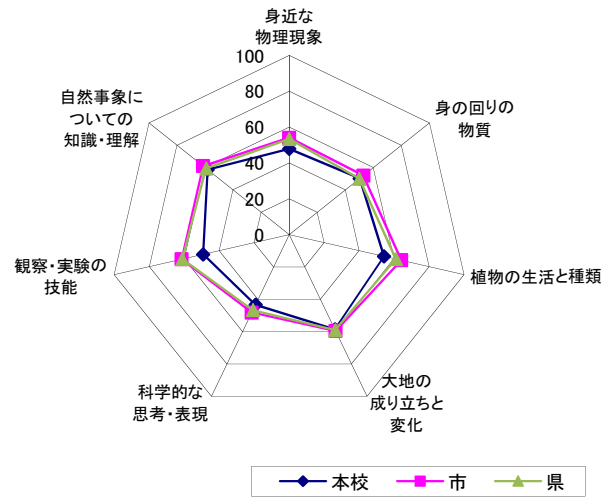
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○移項について理解し、簡単な1次方程式を解く問題が県よりも5ポイント程上回っている。 ●文章から1次方程式を立式することが県よりも7ポイント程下回っており、文章問題を把握する力を身に付けることが課題である。	文章問題の把握ができない生徒が多いため、授業等で図やイラストを使い、イメージしやすくする。 数多くの文章問題を考えさせて、考えの幅を増やしていく。
図形	○投影図がわかる ○側面積を求める式を選択することができる ○四角錐の体積を求める式を選択することができる ●対称移動、回転移動を組み合わせた移動についての問題が県よりも10%程低く、移動後の図形をイメージできない生徒が多いと見受けられる。	模型等を使わせることで、図形に対するイメージを養っていく。
関数	●比例のグラフを利用し、目的地までの時間を求める ●問題文中の関係と反比例の関係にあるものを選ぶ問題はともに県よりも5%近く下回っており、身に付けた基礎・基本を生かすことができていないと見受けられる。	基礎的な問題の正答率は県と同等である。しかし、文章問題の把握ができない生徒が多い。立式できるようにするために、授業等で図やイラストを使い、イメージしやすいように工夫をする必要がある。
資料の活用	おおむね県、市と同程度であった。	資料の活用では、概ね県と同等である。基礎的な問題はできるが、応用的な考えの問題では無回答の割合が高い。そのため、資料を見て、自分の考えを持たせるような支援をしていく必要がある。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	47.9	54.0	53.3
	身の回りの物質	50.3	52.9	50.0
	植物の生活と種類	54.2	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	58.6	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	43.3	48.2	46.7
	観察・実験の技能	49.2	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	58.2	61.4	59.2



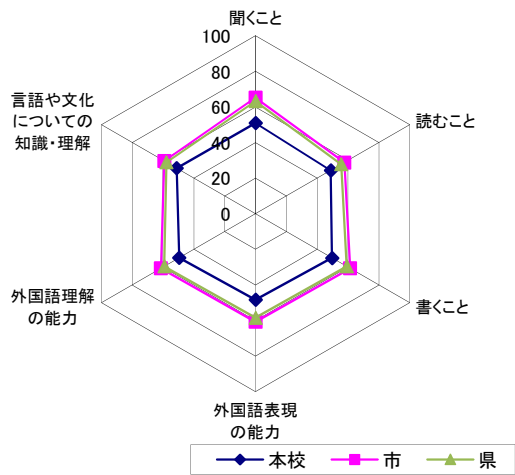
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○重さと質量の違いについては市とほぼ同じ程度の理解を示している。 ●凸レンズの焦点や音の高さ・大きさについては理解が不十分で、自分の考えをまとめて適切に表現する力が不足している。	実験や観察の結果をまとめて考察する時間を確保し、グループ内等での発表を行う場を積極的に設けることで適切に表現する力を身に付けさせる。
身の回りの物質	●市の平均より15.2%も下回っている。基礎・基本的な事項の理解と定着がなされていないことと、計算力の不足のが原因と考えられる。	ミニテスト等、基礎基本を定着させる場を工夫する。また、生徒の計算力を把握し、必要に応じて計算力向上の手だてを数学科と協力して行う必要がある。
植物の生活と種類	●顕微鏡を正しく使うための手順があやふやである。手順にも合理的な理由があることを理解していないためと思われる。 ●植物の各部の位置と名称がきちんと把握されておらず、基礎基本の定着不足が原因と思われる。	実験観察の意義や目的をしっかりと理解させてから取り組ませる工夫をしていく。 ミニテスト等、基礎基本を定着させる場を工夫する。
大地の成り立ちと変化	○地震のゆれの種類及び震源からの距離と震度との関係を考える問題については市の平均より上回っていた。 ●柱状図の見方・理解について不十分な点が見えられた。	観察結果や表・グラフの読み取りの結果から考えをまとめて発表し合う機会を多く設定する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	51.0	65.2	63.2
	読むこと	48.8	57.6	55.6
	書くこと	49.6	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	48.3	60.7	58.4
	外国語理解の能力	49.5	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	51.2	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●平均正答率が市と比べて、10%以上低い結果となった。まほとりの英文を聞いて、その質問に答える問題でつまずきが多く見られた。また、基本的な単語を聞き取る問題【曜日】においても、正答率が低い結果となった。	・今後は、毎時の授業で、教科書のリスニング問題だけでなく、副教材を活用して、聞き取りの問題を多く取り入れて指導をするよう、授業展開の工夫を行っていく。 ・授業の最初に行うウォームアップ時に、簡単な日常会話のやりとりを通して、英語で聞き取ることに慣れ親しみ、正確に聞き取る訓練をしていく。
読むこと	●平均正答率が市と比べて、10%以上低い結果となった。特に、対話文かやグラフから、テレビを見る生徒の人数を読み取る問題とった読解力を身につけることが課題と考えられる。	・教科書の本文の意味を理解しているかどうかの確認をQ & Aなどで出題したり、内容を簡単に英文でまとめてみたりの活動を多く取り入れ、長文読解の力を身につけていく。 ・日頃から、英語で読む機会を多く作り、教科書に出てくる役を実際に演じながら読むことで、楽しく活動ができるように工夫する。
書くこと	●平均正答率が市と比べて、10%低い結果となった。特に、基本的な語の並べ替えの問題や、一般動詞の使い方などの問題でつまずきが多く見られた。また、3文以上のまほとりのある英文を書くことにとても苦手意識をもっており、無回答の生徒も見られた。	・どの単元においても、書く活動を必ず取り入れ、日頃からまほとりのある英文を書く訓練をしていくことで、英語で書くことに対する苦手意識をなくしていく。 ・また、簡単な日常会話を実際に英語で書いてみながら、自己表現の能力を養っていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習・復習をしている」の肯定割合が市や県のを上回っている。また、「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)」でも肯定割合が市や県のを上回っている。これは、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定割合が8割を超えていることによるのではないだろうか。

○「授業では、クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」の肯定割合は、8割を超えている。また、「クラスは発言しやすい雰囲気だ」の肯定割合は、91.2%で市や県のものより10%以上多い。さらに、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定割合は、7割を超えている。これは、クラスの友だちや先生方との人間関係が良好であり、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定割合が高いことにつながっていると考えられる。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定割合は、85.3%で8割を超えており、また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は、75%である。これは、各教科において言語活動を積極的に取り入れている成果であると考えられる。

○「食事のとき、好ききらいをしないで食べている」の肯定割合が85.3%でとても高い割合になっている。これは小学校からの食育の成果であると考えられる。今後も割合が高くなるような工夫をしていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定割合が70%近くあり、市や県のものよりも多くなっている。また、「クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定割合は64.7%と市や県のものよりも10%以上少ない。そして、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」では、肯定割合が39.7%と少ない。さらに、「自分には、よいところがあると思う」の肯定割合が63.2%で、市や県のものより10%程度少ない。言語活動を積極的に取り入れクラスは発言しやすい雰囲気であるが、ものごとを深く考え自分の考えを持つことが難しい状況であることを改善していくため、校内や小中連携での研究推進をしていくことが必要であると考ええる。

●「毎日、朝食を食べている」の否定割合が、14.7%と市や県のものより倍以上になっている。これは、「早寝、早起きを心がけている」の否定割合が、35.3%と市や県のものより多いことや、「ふだん1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか」では、「7時間より少ない」が60.3%と市や県のものより非常に多いことと関係しているのではないかと考えられる。また、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームをする時間は除く)」では、「1時間以上」が41.2%となっていることが、睡眠時間などに関係しているのではないかと考えられる。今後さらに詳しく調査研究していく必要があると考ええる。